

第157回定例研究会

5月20日(木)

於: 国会会館および Zoom

# ポストコロナにおける社会政策

## ～ベーシック・インカムについて考える～

報告者: 中澤 秀一 氏 (静岡県立大学短期大学部准教授)

### ○はじめに

ベーシック・インカム (BI) : 直訳すれば「基礎的な収入」。すべての個人を普遍的に保障する所得保障。すべての個人に対し無条件に定期的に現金を給付するところに特徴がある⇔しかし竹中平蔵氏の提案のように、月額7万円を一律に支給することによって、既存の社会保障を廃止するのがベーシック・インカムの姿だとしたら、貧困・格差はこれまでよりも深刻にならざるを得ない。

### ○コロナ禍とベーシック・インカム (BI)

コロナ禍のなか、ベーシック・インカム (BI) が期待と関心を集め、その導入の機運が高まっている。

2020年7月国連開発計画 (UNDP) が「臨時ベーシック・インカム: 開発途上国の貧困・弱者層を守るために」を公表→「世界の最貧層を対象にただちに臨時のベーシック・インカムを導入すれば、約30億人が自宅に留まれようになり、新型コロナ感染者の急増を抑えられる可能性がある」

シュタイナー総裁: 「前例のない時代には前例のない社会的・経済的措置が必要です。その一つの選択肢として浮上してきたのが、世界の最貧層を対象とする臨時ベーシック・インカムの導入です。ほんの数か月前には、不可能と見られていた措置かもしれません」

### ○各国の導入状況

・スペイン: 2020年6月から所得制限をつけた上で、最低限の所得を、単身者は月額460ユーロ (約

5万7500円)、5人世帯は1015ユーロ (約12万7000円) と定め、差額を支給 (250万人、国民の5%が対象)。費用は30億ユーロ (約3700億円)。企業の優遇税制を縮小し、新たなデジタル課税を導入して財源とする。

・ドイツ: 120名を対象に3年間毎月15万円を支給する実証実験

・フィンランド: 2017年1月から約2年間、無作為に選ばれた2000人の失業者を対象に、月額560ユーロを支給。生活満足度が上がり、起業意欲が高まったという報告がある。

### ○社会保障制度とベーシック・インカム

社会保障制度の中核に社会保険制度があり、基本的に勤労し、保険料を拠出したものがリスクに応じて給付を受けるというのが、資本主義のもとでの生活保障のあり方である。しかし、社会保険だけだと漏れてしまう層が必ず出てくるので、生活保護制度で補完し、社会手当制度で補充するような体系になっている。

最低賃金や社会保障による最低規制ができていないのに、安易にベーシック・インカムによって貧困や格差などが解決することは無理だと考える。

### ○ベーシック・インカムで貧困は解決できるのか

ベーシック・インカムは資本主義に対する異議申し立てとして登場したが、環境破壊の時代においては問題の根本解決にならない。斎藤幸平氏は『人新世の「資本論」』で生産手段などを自分たちで共同管理する脱成長コミュニズムを提唱している。

\*連絡先: 〒420-0851 静岡市葵区黒金町55番地 静岡交通ビル3階301号 (静岡県評内)

静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

メール [roudouadv@wave.wbs.ne.jp](mailto:roudouadv@wave.wbs.ne.jp) ホームページ <http://shizuokarouken.sakura.ne.jp/index.html>